

2012 ACTIVITY DIGEST SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

2012
活動実績
ダイジェスト



Contents

滋賀医科大学のこの1年	01
SUMSプロジェクト	02
教育	03
研究	05
診療	07
社会貢献	09
国際交流	10
コンプライアンスの取り組み 大学評価指標	11
業務運営・改善	12
財務の状況	13
大規模災害訓練	14

国立大学法人

滋賀医科大学

滋賀医科大学のこの1年

2012

April 4

- ・ スチューデントドクターが国立病院機構滋賀病院で臨床実習を開始
- ・ 入学宣誓式、大学院入学宣誓式
- ・ **病院再開発完成記念コンサート**
- ・ 全学フォーラム

May 5

- ・ 浜松医科大学との交流会（於：浜松医科大学）
- ・ **病院再開発完成記念内覧会・記念式典・記念講演会・記念祝賀会を開催**

June 6

- ・ 解剖体納骨慰霊法要
- ・ 地域イノベーション戦略支援プログラム（グローバル型）平成 24 年度研究計画発表会
- ・ 関連病院長会議

July 7

- ・ **東北大学（中国）の学生来学**
- ・ オープンキャンパス（医学科）
- ・ 係長（専門職員）研修「アクティブモチベーション研修」

August 8

- ・ オープンキャンパス（看護学科）
- ・ 学外有識者会議
- ・ 報道機関との懇談会
- ・ **高大連携事業（虎姫高校 SSH サマーセミナー・膳所高校スーパーサイエンスハイスクール・膳所高校基礎医学講座「夏休み 1 日実習」）**
- ・ メディカルスタッフ研修&発表会
- ・ 地域「里親」学生支援の宿泊研修

September 9

- ・ **「滋賀県医師キャリアサポートセンター」開設**
- ・ **「癒着防止剤の開発」について記者発表**

October 10

- ・ 医学科第2年次後期学士編入学並びに秋季大学院医学系研究科博士課程・修士課程入学宣誓式
- ・ 学位授与式
- ・ 業務改善等発表会
- ・ 解剖体慰霊式
- ・ 臨時全学集会
- ・ 若鮎祭（学園祭）

November 11

- ・ 留学生等バス研修旅行
- ・ 研究動物慰霊式
- ・ **ナイロビ大学及びケニア中央医学研究所と学術交流協約締結**
- ・ **分子神経科学研究センター国際シンポジウム**
- ・ **国立大学法人生命科学研究機器施設協議会**
- ・ **浜松医科大学と包括協定締結**
- ・ コンプライアンスに関する研修会

December 12

- ・ 全学フォーラム
- ・ ハラスメント防止に関する研修会

2013

January 1

- ・ **学内保育所「あゆっこ」に病児保育室オープン**
- ・ 留学生との交流会「国際交流のタベ」
- ・ 管理監督者に対するコンプライアンス研修会

February 2

- ・ **男女共同参画推進のための県民参加シンポジウム**
- ・ 第2回ホームカミングデー
- ・ 大学を支える人材を育むための宿泊研修
- ・ 個別学力試験（前期日程）

March 3

- ・ **JST 研究成果最適展開支援事業 平成 21 年度採択課題「汎用 MR を使う生体内部構造透視画像 下内視鏡手術システムの開発」最終報告会**
- ・ 学位授与式、卒業式
- ・ **国立大学法人監事協議会近畿支部会**
- ・ **スチューデント・ドクター認定式**
- ・ 学外有識者会議
- ・ 地域「里親」学生支援の宿泊研修

Society-based, Unique, Mindful, and Strategic Medical Service (SUMS) project 2010-2015

「次世代を担う人材育成と医療科学・技術の創出」

法人化第二期（2010～2015）の目標を SUMS project 2010-2015「次世代を担う人材育成と医療科学・技術の創出」にまとめました。これは第一期にえられた成果を生かし、さらに充実発展に向けたものであります。

1

地域基盤型教育・研修 (*Society-based Education*)

地域基盤型教育を推進し、医療福祉の分野で活躍する人材を育成する。

- ① 早期体験実習、患者宅訪問授業、模擬患者の会や里親との交流の充実、医学科定員増に対応した設備や学習環境の整備
- ② Science, Arts, Ethics を軸としたカリキュラム編成、基本的知識と最新医学の知見、スキルズラボの活用、医療水準Ⅱの確保と臨床実習の評価基準、継続的な倫理教育
- ③ 医師・看護師国家試験合格率、各々 95%以上、98%以上の達成
- ④ 任期付教職員の導入による業務の活性化
- ⑤ 優秀教員の表彰、優秀学生の奨学金給付、学生支援の拡充
- ⑥ 魅力ある研修プログラムによる総合医、専門医、地域医療支援医師の養成
- ⑦ メディカルスタッフの教育プログラムの推進

2

独創的研究 (*Unique Research*)

基礎医学と臨床医学との融合による新領域の研究を展開する。

- ① 重点研究と独創的各個研究の推進
- ② 研究グループの組織化による研究の強化
- ③ 大学院学生数 100%確保、留学生の在学学生数の増加
- ④ 教職員海外研修や留学生等の支援による国際交流の促進
- ⑤ 産学連携の推進

3

充実した医療 (*Mindful Medical Service*)

先進医療と高度医療を推進し、地域医療に貢献する。

- ① 先進医療と高度医療の推進
- ② オーダーメイド医療の開発
- ③ 再生医療への取組
- ④ 低侵襲医療
- ⑤ 地域における不可欠な医療分野の強化

4

戦略的組織活性化 (*Strategic, activated Service*)

組織の活性化で大学の機能を向上する。

- ① 教職員のキャリアアップ支援体制
- ② 業務の省力化、効率化にむけたボトムアップ体制の強化
- ③ 積極的な情報公開
- ④ 男女共同参画社会の実現に向けた具体的取組
- ⑤ エコプロジェクトの推進
- ⑥ 収支バランスの改善によるソフト面の強化

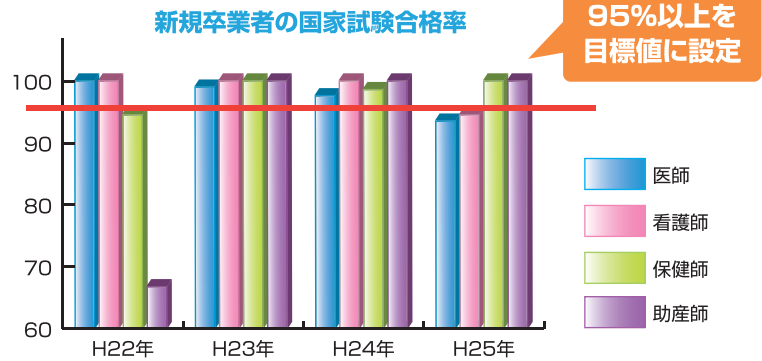
教育

高い国家試験合格率を維持するための取り組み

- マンツーマン方式のきめ細かい指導
- 国家試験に対する質問等を受け付ける
国家試験担当教員の設置
- 補講の実施 など

平成25年の医師国家試験及び看護師国家試験では目標を達成することができませんでした。
(医師合格率:93.5%, 看護師合格率:94.5%)

引き続き、模擬試験の結果分析に基づいた補講や学内国試模擬試験の企画・実施などの支援を行い、目標達成を目指します。



産学協働支援による学生主体の研究医養成

「産学協働支援による学生主体の研究医養成」が、文部科学省「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」に採択されました。

本事業は、基礎医学の研究と教育を担う研究医を養成するものです。

大学院進学時には、産学協働の奨学金でサポートし、学部から大学院までシームレスに研究活動を発展させ、研究医を従来よりも早期に養成することを目指しています。

分子医科学、病理学、法医学・公衆衛生学の4つの専攻を選択できます。

A・Bプラン：分子医科学
Cプラン：病理学・法医学・公衆衛生学

年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
通常学年進行	医学部						卒後臨床研修	大学院博士課程				
Aプラン	医学部				大学院博士課程		大学院博士課程		医学部	※選択制		
Bプラン	医学部						大学院博士課程			※選択制		
Cプラン	医学部						卒後臨床研修	大学院博士課程		研究医		

※卒後臨床研修 or 基礎系研究医を選択します

地域「里親」による学生支援登録学生が県内に就職

里親支援事業として、2回目の卒業生を送り出しました。平成24年度に卒業した学生は7名中6名が県内の医療機関等に就職しました。今後は、「里親」として、後輩を支援してくれることと期待しています。

卒業生のメッセージ

沖島の離島での地域医療を知れたことが一番心に残っています。先進医療だけでなく様々な現状を抱えている地域の問題を知ることができてよかったです。

たくさんの地域を見て、滋賀の良さを知ることができました。ありがとうございました。4月からは医大でがんばります。

私も里親さんと同じ助産師になれました!! みんなと宿泊研修で一緒に話したり、医療のことを学べたりとても充実していました。ありがとうございます。

滋賀の特性がよく分かる宿泊研修で、自分がこの土地で働くにあたって心に留めておくべきことが分かった気がします。

Educational Activity

臨床の専門家による実践的な看護教育

看護学科では、医療機関等の優れた医療人に対し、滋賀医科大学看護臨床教員の称号を付与し、臨床教育の指導体制の充実を図っています。

平成24年度は、本学附属病院の看護師7名に称号を付与し、栄養看護学・クリティカルケア学・成人看護学・老年看護学・小児看護学・母性看護学・助産学領域の9科目の講義・演習で、医療現場の実践的な知識及び技術を教授しました。



看護学科での実習の様子

看護臨床教育センターの看護スキルズラボの利用者数も毎年増加し、技術習得の演習に高い効果を上げています。

平成24年度の看護臨床教員

- 看護臨床教授 : 1名
- 看護臨床准教授 : 3名
- 看護臨床講師 : 1名
- 看護臨床助教 : 2名



看護スキルズラボ

次代を担うがん研究者・医療人の養成

本学と京都大学、三重大学、大阪医科大学、京都薬科大学共同のプログラム「次代を担うがん研究者・医療人養成プラン」が、文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に採択されました。

各大学がそれぞれの個性や特色、得意分野を活かしながら、相互に連携・補完して教育を活性化し、高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医療人の養成を目指します。

本学では、がん専門医療人養成コースとインテンシブ・コースを設置しています。

がん専門医療人養成コース

平成24年度は、秋季入学の2名と研究コースからコース変更した在学生5名を受け入れました。

新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース

新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース

地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース

地域の放射線治療を支える専門医養成コース

インテンシブ・コース

各種セミナーや講演会等を開催するとともに、放射線治療施設研修として、県内の医療機関より、1名を受け入れました。

地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース(インテンシブ)

高度放射線治療を担う医療人養成コース(インテンシブ)

平成24年度学長賞授与式



がん薬物療法医コースの大学院生がLeukemia誌に論文を発表し、学長賞を受賞しました。

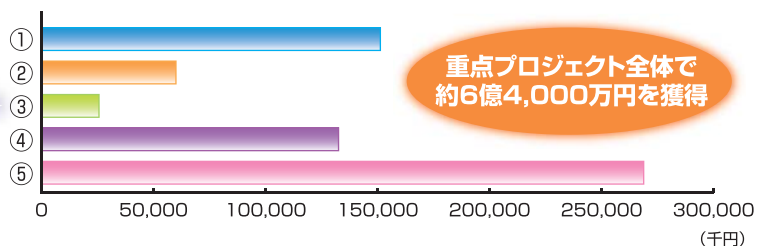
研究

重点プロジェクトの推進と成果

本学の特色を生かした5つの研究を「重点研究プロジェクト」として推進しています。

- ① サルを用いた研究
- ② 神経難病研究
- ③ MRによる分子イメージング研究
- ④ 生活習慣病研究
- ⑤ 総合がん治療研究

5つの重点プロジェクト外部資金獲得額



平成24年度の主な研究成果

▶ サルを用いた研究

本学は、京大iPS研究所の山中教授が提唱されている「iPSバンク構想」において、ヒトへの応用の可能性を検証するために、サルを使用した実験を京大iPS研究所と共同で平成24年度から開始しました。

今後は、再生医療の研究やカニクイザル癌モデルの開発を進めていきます。

本学は、カニクイザル700頭を飼育管理している唯一の国立大学です。

サルが飼育されている動物生命科学センター



▶ 神経難病研究

鼻の分泌物を用いたアルツハイマー病診断についての研究を実施し、鼻腔に沈着するベータアミロイド量が脳の老人斑^{*}量に反映することを、アルツハイマー病モデルマウスを用いて明らかにし、Neuroscience Lettersに報告するとともに、国際アルツハイマー病学会で発表しました。

また、耳鼻咽喉科学講座、附属病院認知症外来、臨床研究開発センターと共同で臨床研究を開始しました。実施件数が82例となり、予定どおり進捗しています。

さらに、アルツハイマー病のMR画像診断薬に関する特許が1件成立したほか、神経難病の診断・治療法に関する特許を新たに4件出願しました。

※老人斑とは...

アルツハイマー病の原因物質であるベータアミロイドが凝集し、脳内に沈着したものです。



▶ 総合がん医療推進研究

平成23年度より、肺癌を対象とした日本初の「がんペプチドワクチン療法^{*}」医師主導型治験を実施しています。

この治験は、4つの共同研究機関（昭和大学病院、東北大学病院、福島県立医科大学病院、滋賀医科大学病院）で実施しており、本学は研究代表者及び治験調整事務局を努めています。登録症例は予定どおり進捗しています。

さらに、平成24年度には、厚生労働科学研究費補助金（難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業）に増額採択（2億円/年）されました。

また、京滋地域のがん診療連携拠点病院群等と治験患者の紹介に関する連携を開始しました。

※がんペプチドワクチン療法とは...

がん細胞に目印を付ける「がんペプチド」をワクチンとして患者さんに注射し、がん細胞を攻撃する細胞を増殖させ、がん細胞を殺す力を高める治療法。



Research Activity

社会的関心の高いテーマに関する研究

看護学科では、「脳卒中や心疾患早期受診の啓発活動」「サポート下着の研究」など、予防・療養支援や女性の健康等、社会的関心の高いテーマについて、継続して研究を進めています。

平成24年度は、科学研究費補助金や受託研究費などにより総額約4,500万円の外部資金を得て、31件の研究を実施しました。

また、脳卒中の早期受診を促す地域啓発に関する研究成果が国際誌（Cerebrovasc Dis）に掲載されました。

平成24年度の看護学科 外部資金獲得状況

- 科学研究費補助金 : 30件
- 厚生労働科学研究費補助金 : 1件
- 産学官民共同研究 : 6件

総額 約4,500万円

新しい外科止血機器の開発

大学発ベンチャー創出推進（科学技術振興調整費）「マイクロ波応用手術支援機器と手術システムの臨床応用」において進めてきたマイクロ波手術機器の研究が、「携帯可能な小型・省力型マイクロ波手術機器の開発」として、経済産業省「課題解決型医療機器開発事業」に採択されました。

強力な止血能力を有する手術機器です。
マイクロ波発生装置を小型化し、エネルギー損失を少なくすることで、携帯使用が可能となり、野外など電源確保の困難な場所や災害時でも外科止血処置が行えます。
実用化に向け、複数の企業と共同研究を開始しました。

携帯可能なマイクロ波手術機器

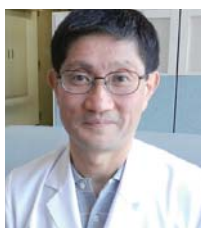


優秀研究者の表彰

研究活動の支援・点検・評価を目的とする研究活動推進室では、毎年、学内の研究について成果を評価し、優秀研究者を選定して表彰を行っています。

平成24年度 優秀研究者

小児科
多賀 崇 講師



優秀研究者賞をいただき、本当にうれしく思います。

私は、小児科医として20数年、白血病などの小児がん患者さんの医療に携わっています。

目の前にいる小児がんの子供たちの診療をする一方で、日本小児白血病リンパ腫研究グループなどで臨床研究を行っています。

今回の受賞の対象になった論文は、ダウン症候群に発症した骨髄性白血病の再発・難治症例の日本での過去10年の症例、29例をまとめたもので、これまでにこのような報告がなかったことなどから一流誌に掲載されました。

これからも、より多くの小児がん患者さんによりよい治療ができるよう、このような研究を続けていきたいと思っています。

若手研究者への支援

本学では毎年、研究活動を一層促進するため、公募により、大学院生を含む若手研究者の独創的な発想に基づく萌芽的研究を学長裁量経費により支援する助成事業を実施しています。

平成24年度は、45件の応募があり、審査委員の評価点数（5段階評価）及び独創性（3段階評価）等を基準に、総合的に判断して15件の採択課題を決定しました。



学長裁量経費による
研究助成成果発表会

研究課題が採択された各研究者は翌年度、研究成果発表会で成果発表を行います。

また、その成果発表についても審査を行い、研究活動の活性化を促しています。

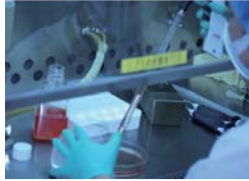
診療

先進医療と臨床研究の推進

平成24年度、新たに、「術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法」と「単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断(リアルタイムPCR法)」が先進医療として承認され、4件の先進医療を実施しています。

▶ 先進医療一覧

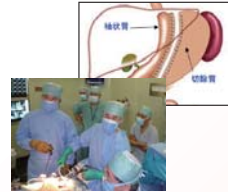
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法



概要: がん細胞を攻撃するリンパ球を増やす働きのある樹状細胞を培養して注射します。

適応症: 本院では、肺がん・乳がんが対象疾患です。

腹腔鏡下スリーブ状胃切除術



概要: 病的肥満症の患者さんに対して、腹腔鏡を使って胃を一部切除し、細長いチューブ(袖)状にします。開腹手術と比べて体への負担が小さくて済みます。さらに肥満に伴う糖尿病・高血圧・高脂血症等の合併症も高率に改善します。

適応症: BMIが35以上の肥満症

術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法



概要: 乳がん術後の患者さんの標準的な治療法であるホルモン剤に加えS-1という抗がん剤を同時に内服してもらい、乳がんの再発を防ぐ効果や安全性を確認します。

適応症: 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)

単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断(リアルタイムPCR法)



概要: これまでより短時間で単純疱疹ウイルス感染症、水痘帯状疱疹ウイルス感染症の診断ができ、重篤化する前に早期治療が可能になります。

適応症: 単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染症(免疫不全のため他の方法による鑑別診断が困難なものに限る。)

▶ 治験・臨床研究における成果

臨床研究開発センターの機能強化を図り、以下の成果を得ました。

- ①厚生労働科学研究費補助金による「標準療法不応の肺癌に有効な新規がんペプチドワクチン療法の開発と創薬展開」(医師主導治験)の治験調整事務局を務め、4つの共同研究機関で予定症例の登録を完了した。
- ②企業と連携した本学発の探索的臨床研究の実施にあたり、説明会等による支援を開始した。
- ③臨床研究支援数は新規7件を含め総計22件となり、前年度の17件を上回った。
- ④新規治験の依頼が19件あり、計45件の治験を実施することにより、治験による外部資金獲得額は、昨年度を上回る約1億5,100万円となった。

さらに、臨床研究開発センターが中心となり滋賀治験ネットワークを組織し、滋賀県で治験等の臨床試験を実施できる医療機関を増やし、臨床研究の底上げを図るとともに、一つの医療機関では受託できない治験に関してもこのネットワークで実施することを目指しています。

Clinical Activity

患者支援センター機能強化による患者サービスの向上

「患者支援センター」では、患者さんへの支援と地域医療連携の推進などを統合的に実施し、患者サービス向上に努めています。

また、安全に入院生活を送っていただけるように、持参薬チェック等の入院前支援を入院支援室において実施しています。平成24年度の入院前支援件数は2,524件となり、昨年度（1,204件）から大幅に増加しました。また、平成24年度の紹介率は77%、逆紹介率は53%、平均入院在院日数は14.1日となりました。



入院支援室スタッフ

患者支援センターの主な活動内容

- 地域医療連携推進
- 予約管理、病床管理
- 医療福祉相談、継続看護
- がん登録推進
- 肝疾患相談

チーム医療体制を強化し、安全で高度な医療を提供

▶ 栄養サポートチームの活動

栄養サポートチーム（NST）は、医師、歯科医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、言語聴覚士、歯科衛生士などで構成され、栄養が不足している患者さんの栄養管理を専門に行うチームです。

平成24年度は、入院患者さんに対し631症例の栄養サポートを行いました。全国国立大学病院の中で、3年連続1位となりました。



栄養サポートチーム

▶ 感染対策チームの活動

感染対策チーム（ICT）は、医師、臨床検査技師、薬剤師、看護師、事務職員などで構成されています。

平成24年度は、週1回、計40回のラウンドを実施し、感染予防対策に関する検証と指導を行いました。感染性胃腸炎の集団発生予防や入院受入制限等の対策によるインフルエンザ集団発生の収束などの成果を上げました。

▶ 緩和ケアチームの活動

緩和ケアチームは、腫瘍センター及びがん診療科の医師、薬剤師、看護師、ソーシャルワーカーなどで構成されています。

がんの早期の段階より、がん性疼痛と身体症状や患者・家族が抱える精神的苦痛への対処を行っており、平成24年度の対応件数は1,738件でした。

若手医師のキャリアサポート

文部科学省GP「コア生涯学習型高度専門医養成プログラム」により、他大学病院と連携し、効率よく専門医資格を取得できるプログラムを実施しています。

平成24年度は、他病院との連携強化を図った結果、他病院への医師派遣（研修）は28名となり、昨年度に比べ2.8倍に著増しました。

また、57名の医師が専門医を取得しました。

滋賀県医師キャリアサポートセンター

また、平成24年度には、滋賀県と連携し、「滋賀県医師キャリアサポートセンター」を設置しました。センターでは、主に以下の取組を実施しています。

- 若手医師が県内で地域医療に従事していく過程でキャリアアップが図れるよう選択制地域基幹病院循環型研修プログラムを作成し支援する。
- 総合相談窓口を設置し、専門医取得などの相談・支援を行う。
- 結婚・子育て等により臨床現場を離れている女性医師が現場復帰するための就労支援を実施する。



滋賀県から奨学金等を受給している本学医学科学生10名と滋賀県医師キャリアサポートセンターとの懇談会を開催しました。

医師のキャリア形成などについて紹介があり、学生からは初期研修などの質問がありました。

社会貢献

Community Relations

開放型基礎医学教育センター (Medical Museum) の構築

本学が持つ基礎医学教育資源(講義資料・実習教材等)を生かし、地域の医療水準向上への貢献を目的とし、開放型基礎医学教育センター(Medical Museum)を構築しました。

作成した標本等は、メディカルスタッフ教育機関の学生の実習やオープンキャンパス、高大連携事業、中学生の大学訪問等に活用します。

オープンキャンパス、高大連携事業の参加者や中学生には、触ることができるシリコン包埋の肉眼標本に大きな反響がありました。



開放型基礎医学教育センター(Medical Museum)

スーパーサイエンスハイスクールコアSSH事業と高大連携事業

滋賀県内の4校(膳所高校、虎姫高校、立命館守山高校、彦根東高校)とのSSH事業の実施や高大連携の講義・見学を実施しました。参加した生徒にとって、医学や看護学に関する関心を高める機会となりました。

高校名	事業内容	対象
膳所高校	講義:8回、実習:1日	2年生:医学・医療関係に興味のある生徒
	講義と実習:1日	1年生:理数科の生徒
虎姫高校	講義と実習:2日	
立命館守山高校	講義:8回、実習:1日	2年生:医学・医療関係に興味のある生徒
	講義に教員1名を派遣	1年生の医学部入門講座
彦根東高校	講義と学内見学	1・2年生



▶ SSH以外の高大連携

- 東大津高校1・2年生の看護系進学希望者を対象に2回の講義を実施
- 光泉高校生の進路への見聞を深めるための見学会として講義と学内見学を実施
- 石山高校1年生の進路意識を高めるため、講義及び見学を1日実施
- 県立河瀬中学校3年生に対し、大学説明と学内案内を実施

▶ 出前授業

- 出前授業は小学校、中学校、高等学校の合計27校で実施

※SSH:文部科学省の指定により、高等学校において、先進的な理数教育を実施するとともに、高大接続の在り方について大学との共同研究や、国際性を育むための取組を推進する事業

病院内の各所や医療手技訓練用のシミュレータを展示したスキルズラボの見学を組み入れ、好評を得ました。

地域医療の質向上のためのメディカルスタッフの研修受け入れ

地域における医療の質向上に貢献するため、看護臨床教育センターを活用し、数多くの研修依頼に積極的に対応し、看護職員87名の研修を受け入れました。

県内外の医療関係教育機関等から、7,188名(前年度比約1.4倍)の研修生・実習生を受け入れました。

受入数は、4年連続で増加しています。

研修内容	参加者数
新人看護研修	35名
臨床教育助産師育成プログラム	1名
潜在助産師・看護師の就労支援研修	20名
急性期循環器系看護研修	27名
NICUでの看護研修	2名
他大学看護教員への研修	2名
計	87名

国際交流 International Exchange

ナイロビ大学及びケニア中央医学研究所と学術交流協約を締結

平成24年11月7日、ナイロビ大学からマゴハ副総長とオムワンド医学部長、ケニア中央医学研究所からポケ所長を本学に迎え、学術交流のための協約を締結しました。

あわせて、大学や研究所の紹介を兼ねたプレゼンテーションや本学附属病院の施設見学などを実施し、友好を深めることができました。

かねてよりケニアと本学は、教員や学生の自主研修での交流が行われており、今後、この交流協約のもと、ますます活発な交流が行われ、教育、研究、診療での連携が発展することが期待されます。



学術交流協約調印式

スキルズラボ見学



心臓血管外科技術指導プロジェクトによる国際支援

平成24年度は、外科学講座の浅井教授と木下医師がベトナムのチョーライ病院を訪問しました。

ベトナムの医師とともに、5日間で、緊急手術3例を含む計14例の最重症症例を先進的手術で救命しました。

また、教授や地方から勉強に来た医師達も交え、研究実績や困難例の治療方針の検討を特別カンファレンスとして行うなど、多大なる成果を上げることができました。

ベトナムのチョーライ病院での心臓血管外科技術指導プロジェクトを4年連続で実施しています



手術の様子



カンファレンスの様子

SUMSプロジェクトによる国際交流の支援

SUMSプロジェクトとして、教職員海外研修や海外の研究者等の受け入れを支援し、国際交流の促進を図っています。

受け入れた研究者は、秋入学制度により本学大学院に入学しています。

平成24年度は4名が入学し、在学の留学生数が21名と、法人化以降最多となりました。

学生による国際交流の推進

医学科4年生の自主研修において、31名が海外研修を行いました（アメリカ、カナダ、ケニア、中国等）。

研修終了後には、医学科3年生を対象とした海外研修報告会を開催し、海外研修に対する心構えや研修先の選択方法について伝えるなど、継続的な交流を図っています。

また、看護学科においても、海外研修報告会を初めて開催し、今後、海外研修を希望する学生にとって、意識を高める機会となりました。



● 学生の研修レポートより

● ケニアの医療機関を訪問し、私は医師になるにあたって医学的知識以外に、すごく大きな、人間として大切なことを子供達の笑顔から学べたのではないかと思います。

● 今年は治安が例年より悪くケニアに行くにはかなりの覚悟がいりしましたが、「絶対に生きて帰りましょう」と言ってくださり、ケニアでの研修先との連絡・段取り、行く前の病院研修など全てを準備してくださった血液内科の木藤先生、一緒に3週間を過ごし支えてくれた同回生4人、ケニア行きをOKしてくださった滋賀医大の先生方、家族には本当に感謝しています。

● 後輩の皆さんは4回生になったらぜひ、自主研修先にケニアを選んでください。すごく楽しいし、なんか自分がちっぽけに思えます!! ありがとうございます。

コンプライアンスの取り組み

Compliance Activity

内部監査機能の強化及び再発防止策の実施

監査体制の構築と機能強化を目的として、監査室に専任職員を配置し、監査事項の拡大とモニタリングの実施などを行い、監査機能を強化しました。監査法人及び監事の指摘事項に対しては、定期的に改善状況を確認しています。

平成23年度に発覚した研究費の不適切使用等に対しては、役員会等において再発防止策を検討し、臨時全学集会を開催して周知するなど、啓発活動を実施するとともに、再発防止策の実施状況についても確認を行いました。

全教職員が誓約書に署名し、業務を遂行するにあたり、規則等を理解し、高い倫理観に基づきこれを遵守する旨、また、職務の遂行において正しい選択と透明な処理を行い、不正使用を行わない旨誓約し、コンプライアンスを再認識しました。



臨時全学集会



コンプライアンス研修会



ハラスメント防止研修会



管理者に対する研修会

▶ 研究費の不適切使用等に関する再発防止策

教職員へのコンプライアンスに関する啓発活動等

- 再発防止のためのリーフレット作成、本学構成員全員への配付とメールでの通知
- 取引業者向けリーフレットの作成、配付
- ガイドラインや規程等の遵守、周知徹底
- 研究費の取扱いに関する理解度チェックの実施
- 内部通報制度ポスター等作成(通報者保護と通報・相談窓口の周知徹底)
- 業者に対して、不正取引の依頼があった場合の本学への通報を要請
- 新規採用者(特任教員、研究員、非常勤職員含)を対象とした説明会の実施
- 研究費使用に関する諸制度の見直し

研修会・講演会等の開催

- コンプライアンスに関する研修会(H24.11.29)：104名参加
- ハラスメント防止に関する講演会(H24.12.17)：101名参加
- 管理監督者に対するコンプライアンス研修会(H25.1.9・29)：70名参加

大学評価指標

University Evaluation Index

戦略的目標達成のための指標



独自の評価指標を
44項目設定し、達成に向け
取組を実施しています。

大学評価指標は、本学の特徴的な取り組みのひとつです。

第二期中期目標・計画においては、戦略的目標達成のため、中期目標・計画と連動し、大学の活動状況を定量的に確認できる独自の評価指標とその目標値を設定し、学内Webサイトで共有しています。

目標設定した項目について、理事が主体となり、全教職員と共働して目標達成に努めています。また、役員会において、その進捗状況を確認するとともに、進捗が不十分な項目については、意見交換・分析を行い、達成に向けた活動につなげています。

平成24年度は、新たに「学生1人あたりの教育経費」「教員1人あたりの研究経費」「学生の英語力」という指標を加えました。

業務運営・改善 Business Improvement

外部コンサルタントを活用した業務改善

平成24年2月～10月に実施した外部コンサルタントによる事務業務の分析により、課題15項目を抽出しました。各項目毎に、改善に向けての準備を行い「業務改善実行ロードマップ」を作成しました。

重点改善5テーマを中心に順次改善を実施していきます。

業務改善実行ロードマップ(重点改善テーマ)

	平成25年4～6月	平成25年7～9月	平成25年10～12月	平成26年1～3月
① 勤怠管理業務	準備・検討	契約	試行実施	本格実施
② 物品請求業務		準備・検討	(開始時期検討)	
③ 出張・旅費請求業務		準備・検討	(開始時期検討)	
④ 給与計算業務		準備・検討	(開始時期検討)	
⑤ 情報化グランドデザイン			準備・検討	(開始時期検討)

戦略的・弾力的な人事制度

大学事務職員がステップアップしていく過程で、働き方の選択ができるよう、本学では、「スペシャリストコース」と「マネージメントコース」を設けています。

平成24年度は、新たに主幹1名、係員1名がスペシャリストコースを選択し、平成23年度の制度創設以降、計4名の登用となりました。

※スペシャリストコース:研究支援(産学連携・知的財産・臨床研究)、診療報酬など高度な専門的知識を必要とする業務を行います。

スペシャリストコースの人材

- 主幹：診療情報管理士 1名
- 主幹：医業経営コンサルタント 1名
- 主査：医療情報 1名
- 係員：診療情報管理士 1名

ワーク・ライフ・バランスの推進(男女共同参画の推進)

本学の男女共同参画推進の取り組みが、文部科学省の平成24年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択されました。(平成24～26年度 補助金額:5,337万円)

「女性研究者研究活動支援事業」とは、女性がその能力を最大限に発揮できるよう、出産・子育て等のライフイベントと研究を両立するための環境整備を行う取組を支援するものです。

男女共同参画推進室

- 平成25年1月に男女共同参画推進室の専用室を開室
- 女性研究者支援チームを設置：学長補佐(女性研究者支援担当)、チーフコーディネーター、その他3名の室員を配置



男女共同参画推進室
スタッフ

今後、女性研究者の研究活動を支援するための様々な取組を立ち上げ、男女協働で研究活動ができる滋賀医大らしい職場環境づくりを目指します。

また、本学の研究活動活性化に繋がるよう推進してまいります。

学内保育所「あゆっこ」

- 待機児童解消のため、年齢別定員の見直しを実施
- 保育内容を充実するため、園庭拡張などを実施
- 念願であった病児保育室を開設

また、SUMSプロジェクトにより、産前・産後休暇や育児休業を取得した女性研究者の支援として特任助教の配置を行っています。

なお、平成21年度に策定された男女共同推進基本計画のアクションプランの中間評価を実施し、順調に進んでいるとの評価となりました。

広くなった園庭



病児保育室オープニング
セレモニーの様子

財務の状況

Finance

[貸借対照表について]

資産の部は、23年度48,494百万円でしたが24年度は47,644百万円に減少しています。

主な要因は、基礎実習棟改修等により建物等が増加した以上に減価償却費の負担が増え、固定資産が減少したことによります。

また、負債の部でも23年度31,443百万円でしたが24年度は29,722百万円に減少しています。これは、長期借入金およびリース債務の返済等によるものです。

(単位：百万円)

資産の部			
	①平成23年度	②平成24年度	増減 ②-①
I 固定資産	37,713	36,274	△ 1,439
1. 有形固定資産	37,279	36,023	△ 1,257
土地	10,163	10,163	0
建物及び構築物	18,482	18,229	△ 253
工具器具備品	7,069	5,939	△ 1,130
図書	1,528	1,526	△ 3
その他の有形固定資産	37	166	130
2. 無形固定資産	29	48	19
3. 投資その他の資産	405	203	△ 201
II 流動資産	10,780	11,370	590
現金及び預金	6,288	6,268	△ 20
未収附属病院収入	3,875	4,184	309
有価証券	200	200	0
たな卸資産	315	399	84
その他の流動資産	102	319	217
資産合計	48,494	47,644	△ 850

(単位：百万円)

負債の部			
	①平成23年度	②平成24年度	増減 ②-①
I 固定負債	22,904	21,208	△ 1,696
資産見返負債	3,863	3,997	134
長期借入金	17,354	16,188	△ 1,167
退職手当引当金	146	176	30
長期リース債務	1,484	789	△ 695
資産除去債務	57	58	1
その他の固定負債	0	0	0
II 流動負債	8,538	8,514	△ 25
運営費交付金債務	290	172	△ 117
寄附金債務	1,394	1,421	27
前受委託研究費等	173	211	39
一年以上返済長期借入金	1,129	1,167	38
未払金	4,081	4,114	33
賞与引当金	263	267	4
リース債務	744	695	△ 50
その他の流動負債	465	467	2
負債の合計	31,443	29,722	△ 1,721

純資産の部			
	①平成23年度	②平成24年度	増減 ②-①
I 資本金	14,100	14,100	0
II 資本剰余金	2,546	3,100	553
III 利益剰余金	405	723	317
目的積立金	0	47	47
積立金(前中期目標期間)	358	358	0
当期末処分利益(損失)	47	317	270
純資産合計	17,051	17,922	871

負債・純資産 合計	48,494	47,644	△ 850
-----------	--------	--------	-------

[損益計算書について]

経常収益は、23年度26,334百万円から24年度は27,451百万円に増加しています。主な要因は、附属病院収益が937百万円増加したことや補助金収益の121百万円増加によるものです。

経常費用は、23年度26,260百万円でしたが24年度は27,112百万円に増加しています。内訳をみますと、教育経費の増加91百万円、診療経費の増加65百万円、人件費の増加577百万円となっています。人件費は退職者数の増が主な要因の1つです。

その結果、経常利益の増加1,117百万円が経常費用の増加851百万円を上回り、24年度の当期総利益は317百万円となりました。本学の運営状況は23年度に比べさらに良くなっています。

(単位：百万円)

費用			
	①平成23年度	②平成24年度	増減 ②-①
業務費	22,472	23,295	823
教育経費	376	468	91
研究経費	706	732	27
診療経費	9,862	9,928	65
教育研究支援経費	94	110	16
受託研究事業費	485	531	46
人件費	10,949	11,526	577
一般管理費	463	510	46
財務費用	331	312	△ 18
減価償却費	2,995	2,995	0
合計	26,260	27,112	851

(単位：百万円)

収益			
	①平成23年度	②平成24年度	増減 ②-①
運営費交付金収益	5,336	5,235	△ 101
学生納付金収益	589	646	57
附属病院収益	18,273	19,210	937
受託研究等収益	667	680	13
寄附金収益	547	523	△ 25
施設費収益	42	69	27
補助金等収益	160	280	121
財務収益	11	11	△ 1
雑益	253	269	16
資産見返負債戻入	455	529	74
合計	26,334	27,451	1,117

	①平成23年度	②平成24年度	増減 ②-①
経常利益(経常損益)	73	340	266
臨時損失	30	24	△ 6
臨時利益	4	2	△ 2
当期純利益	47	317	270

※百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計額と一致しないことがあります。

大規模災害訓練

Disaster Drill

全学あげての大規模な地震防災訓練を実施

自らの安全を確保し、迅速に防災体制に移行するための一連の対応行動を身に付け、附属病院における患者さんや学生・教職員等の生命身体の安全確保を図ることを目的に、平成24年11月29日、約300名の学生・職員が参加し、地震防災訓練を実施しました。

訓練の概要

想定：琵琶湖西岸断層を震源とするマグニチュード8.4、震度7の直下型地震が発生



本部



本部要員が会議室に急行し
災害対策本部・副本部を設置



各部署が被災状況等を
災害対策本部に報告



衛星電話を用いて
浜松医科大学に応援要請

平成24年度に
新たに取り入れた
訓練

トリアージ

トリアージとは...

災害などで多数の負傷者が出たときに、負傷者を重症度、緊急度などによって治療や搬送の優先順位を決め負傷者を分類すること。



病院玄関に
トリアージエリアを設置



負傷者のトリアージを実施

火災への対応

3D病棟で火災が発生



初期消火を実施



イーバックチェア※を用いて患者さんを搬送

イーバックチェアとは...

階段を避難するための器具。身体が不自由な方、歩行が困難な方々を安全、円滑、迅速に避難させることができる装置。



患者さんを
グラウンドへ誘導

学生



授業の停止
学生の避難誘導

このほか、事前に知らされていないトラブル(42件)に対処するなど、実践さながらの訓練となりました。



財務の状況、大規模災害訓練

訓練終了後には、湖南広域消防局南消防署より講評を受けるとともに、消火器を用いた操作体験を行い、消火器の仕組みや使い方等について理解を深めました。

オリジナルTシャツを作成

ロゴマークをプリントしたオリジナルTシャツを作成しました。

滋賀医大生協
院内ローソンで
販売中!

滋賀医科大学生協

組合員価格 : 1,500円

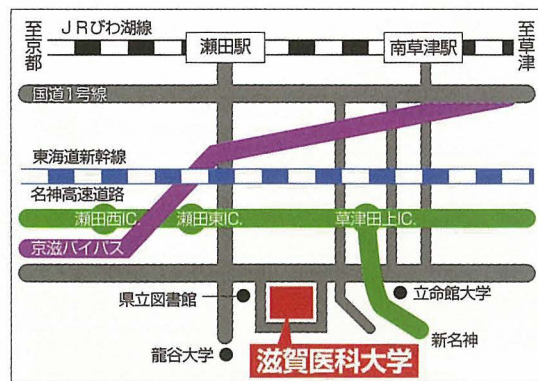
非組合員価格 : 1,800円

附属病院ローソン : 1,800円

- ・デザイン: 2パターン
- ・色: 白・グレー・紺・黒
- ・サイズ: S・M・L・LL



<http://www.shiga-med.ac.jp/>



- JR瀬田駅から「滋賀医大」行きバスで約15分
「医大西門前」又は「大学病院前」下車
- 名神高速道路「草津田上IC」から約5分

ご意見等の
連絡先

本学では、地域の皆様からのご意見等を今後の大学運営に活用させていただきたいと考えています。
お気づきの点等がございましたら、企画調整室にご連絡下さいますよう、よろしくお願いいたします。

滋賀医科大学 企画調整室

T E L ● 077-548-2011

E-mail ● hqkikaku@belle.shiga-med.ac.jp

住 所 ● 〒520-2192 大津市瀬田月輪町